

横浜市感染症発生動向調査報告 8月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています。
- 手足口病の流行警報が発令中です。
- RSウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈8月期に報告された全数把握疾患〉

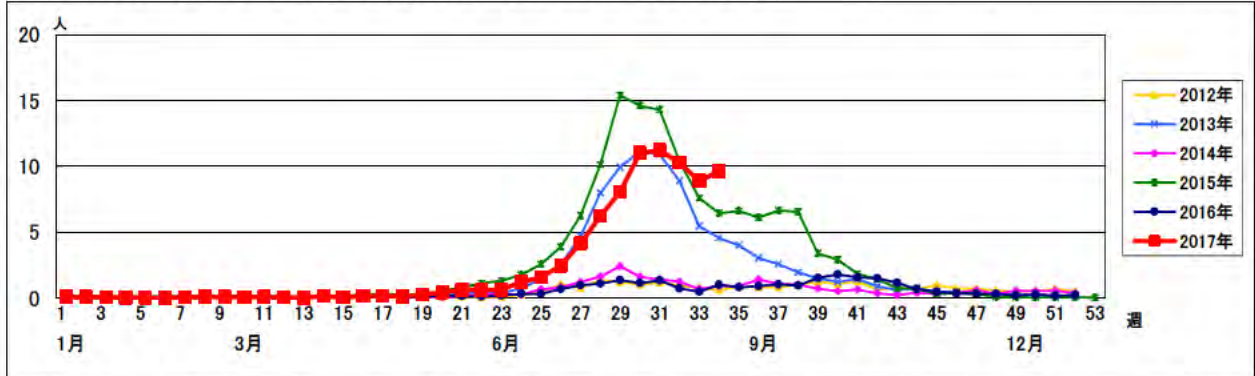
細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件
腸管出血性大腸菌感染症	50件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
レジオネラ症	7件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	6件	梅毒	13件
ウイルス性肝炎	1件	破傷風	2件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	風しん	1件
急性脳炎	3件	—	—

- 1 細菌性赤痢: *sonnei*(D群)の報告が1件ありました。インドでの経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が39件、O26の報告が9件(うち、O157とO26の重複が1件)、O121の報告が1件、O145の報告が1件、O不明の報告が1件ありました。うち、HUSの報告が5件、無症状病原体保有者が12件でした。集団内での発生の報告がありました。
- 3 デング熱: 1件の報告があり、インドでの蚊からの感染と推定されています。
- 4 マラリア: 1件の報告があり、インドでの蚊からの感染と推定されています。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型の報告が7件ありました。感染経路等不明です。
- 6 アメーバ赤痢: 6件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路は、国内での性的接触が2件、国内、タイ、インドネシアでの経口感染がそれぞれ1件ずつ、不詳が1件でした。
- 7 ウイルス性肝炎: B型の報告が1件で、感染経路は同性間性的接触と推定されています。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 急性脳炎: 10歳未満の報告が3件あり、1件はリステリア疑い、2件は病原体不明でした。
- 10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が3件、B群の報告が2件、G群の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 11 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が2件、AIDSの報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が2件、感染経路不明が1件でした。
- 12 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 60歳代の報告が1件ありました。
- 13 侵襲性肺炎球菌感染症: 6件の報告があり、うち10歳未満が3件、30歳代が1件、50歳代が1件、80歳代が1件でした。10歳未満は、いずれもワクチン接種歴がありました。
- 14 水痘(入院例に限る): 検査診断例の報告が1件ありました。ワクチン接種歴はありませんでした。
- 15 梅毒: 13件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件)がありました。うち12件は国内での異性間性的接触が推定され、1件は感染地域・経路等不明です。男性11件、女性2件でした。
- 16 破傷風: 2件の報告があり、ワクチン接種歴は不明です。
- 17 風しん: 1件の報告があり、感染地域・経路等不明でした。ワクチン接種歴はありませんでした。

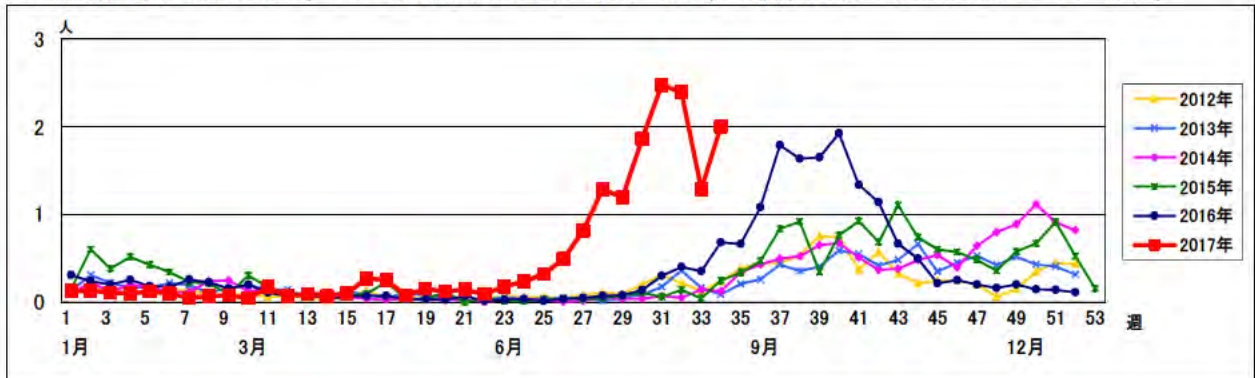
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第30週	7月24日～7月30日
第31週	7月31日～8月6日
第32週	8月7日～8月13日
第33週	8月14日～8月20日
第34週	8月21日～8月27日

1 手足口病:第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第31週に11.20となり、その後は横ばいで推移し、第34週では9.63となっています。



2 RSウイルス感染症:例年より早く増加し始め、第31週で2.47となり、観測を開始した2003年以降、市内では最も高値となりました。その後も例年より高い水準で推移し、第34週では2.00となっています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:19件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:3件	淋菌感染症	男性:9件	女性:6件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.00	1.00	0.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件、内科定点9件、基幹定点38件で、定点外医療機関からは15件でした。

9月11日現在、表に示した各種ウイルスの分離株3例と遺伝子28例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	R S 感 染 症	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	新 生 児 発 熱	無 菌 性 髄 膜炎	ウ ィ ル ス 感 染 疑 い (発 疹)	急 性 脳 炎
アデノ 2型		1								
パラインフルエンザ 1型	1									
パラインフルエンザ 3型	2									
RS			5							1
コクサッキー A6型	1				9	3			1	
コクサッキー A9型		1								
コクサッキー A16型					1					
コクサッキー B5型								1		
パレコ 3型							3			
ノロ GII				1						
合計	4	1	5	1	9	3	3	1	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウィルス担当 】

〈細菌検査〉

8月の「感染性胃腸炎」は腸管出血性大腸菌（O157:H7,VT1&2が6件、O157:H7,VT2が15件、O26:H11,VT1が5件、O26:H-,VT1が2件、O145:H-,VT2が2件）が30件、腸管毒素原性大腸菌（O159:H20が3件、O159:H34が1件、O25:H-が1件、O167:H41が1件、O6:H-が1件）が7件、サルモネラ属菌はO4群が7件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	8月			2017年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					2	1
腸管出血性大腸菌		4	26		7	52
腸管毒素原性大腸菌		4	3		5	3
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		5	2		15	5
不検出	1	0	0	6	9	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	8月			2017年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			1	9		1
T1						
T4				3		
T6				4		
T12				2		
T B3264			1	3	1	1
型別不能				1		
B群溶血性レンサ球菌		2	1		2	5
G群溶血性レンサ球菌			1		2	3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						3
バンコマイシン耐性腸球菌						4
レジオネラ属菌			1			5
インフルエンザ菌		1		1	1	4
肺炎球菌			4		5	14
結核菌					20	66
百日咳菌		1			3	
緑膿菌					1	
その他			2		44	22
不検出	0	0	0	2	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】